

2024年度 こども発達支援事業所 エールマリヤ 事業報告

2023年4月1日 児童発達支援事業認可
2024年3月1日 保育所等訪問支援事業認可

1. 園の概要

(1) 基本情報

名称：こども発達支援事業所エールマリヤ
住所：八千代市米本1359番地米本団地4街区39棟
電話：047-409-3077 FAX：047-488-8615
ホームページ：<https://www.ainosono.or.jp/mariya/ailles/>
メールアドレス：info.ailles-mariya@ainosono.or.jp

2. 実績報告

(1) 利用者数および利用状況：利用定員10名／1日

月	契約数			利用率			収入 (給付費)
	内部	外部	計	内部	外部	欠席	
4月	10	10	20	25%	42%	33%	1,858,947
5月	10	11	21	32%	49%	19%	2,474,173
6月	11	14	25	33%	46%	21%	2,947,747
7月	12	13	25	32%	44%	24%	3,307,985
8月	12	13	25	22%	26%	52%	2,038,181
9月	12	13	25	38%	46%	16%	2,934,305
10月	11	11	22	41%	44%	15%	3,105,885
11月	12	11	23	43%	42%	15%	2,531,502
12月	12	11	23	37%	36%	27%	2,240,370
1月	12	12	24	37%	41%	22%	2,320,388
2月	13	12	25	43%	37%	20%	1,948,948
3月	13	12	25	44%	30%	26%	2,134,673

平均稼働率	91%	令和6年度総収入	29,843,104
内部貸借金額	78,484円（マリヤこども園より 給食費・水道光熱費 振替）		

○利用者の状況

乳児	1名
3歳児	7名
4歳児	10名
5歳児	7名
計	25名

○週利用人数

月	13名
火	10名
水	14名
木	12名
金	12名
平均	12名

○利用回数

週1回	8名
週2回	5名
週3回	6名
週4回	5名
週5回	1名
計	25名

○区分の状況

区分3	9名
区分2	4名
区分1	12名
計	25名

令和7年3月末時点

(2) 事故・ヒヤリハット報告

事故 0件
ヒヤリハット 5件（打ち身4件、脱臼1件）

(3) 職員配置

職員	配置数	氏名	勤務形態
管理者	1	岩崎 知美	常勤
児童発達支援管理責任者	1	西尾 ゆき	常勤
保育士	1	小山 英里	常勤
児童指導員	1	齋藤 明子	常勤
PT・OT・ST	1	中田 徹	常勤
PT・OT・ST	1	淵上 由美子	非常勤

3. 事業報告

(1) 職員の研修について

2024年度事業計画では職員の専門的な知識習得への研修参加が課題となっていました。同年8月、管理者兼児発管が退職し、職員についても退職・採用が繰り返され、新管理者・新児発管が任命された中で、体制を整えたり書類の整理に追われる形で時間が費やされ研修参加が出来ませんでした。引き続き課題となりますが、2025年度は法人内に研修システムが導入され、短い時間で研修を受けられることが可能とのこととで事業所としての義務化された研修や職員の専門的な知識習得は期待できるものと考えています。

また家族支援についても「保護者による事業所評価」の中に求める声が多かった為、保護者会やペアレントトレーニングを行う予定でしたが実施できず、引き続き2025年度の課題としています。

(2) 利用者について

2024年度利用者については、契約数・利用率ともに外部の利用者が多い形となりました。これは内部の利用者だけでは収入につながり難いとの考えがあったことと、向かいにある米本幼稚園の中に療育が必要な園児が多くみられたことにより、外部の契約者数が増えた理由であると考えます。2025年度は内部と外部の比率を8：2に近づけるように園内からの利用者を増やしたいと思います。

(3) 保育・療育連携について

開設から2年が経ち、こども園に併設された事業所ということでだいぶ周囲に認知されてきたと思います。マリヤこども園の一時預かりや小鳩ルーム（プレ保育）を利用された方の中にもエールへ繋がった利用者もいます。こども園と事業所、同じ敷地内にあることで多くの利点があることは良いことだと思います。ただ同じ子どもを見ることになった時、保育と療育でアプローチの仕方が違い、お互いの職員がそれぞれ悩んでしまうことの多い年であったとも感じます。そんな中エールマリヤでまず変えたことはこども園の行事の際には外部の利用者を預からないこととしました。そうすることで対象児のサポートに徹することができると考えたからです。外部の利用者については「振替」という形でご協力を得ることにしました。対象児のサポートに徹することで、同じクラスの他の園児の様子も把握することができるので良いことだったと思います。また各クラスの担任とのミーティング時間を設けて頂き、お互い理解を深められるような話し合いの時間を作りました。その中で部屋の環境整備についても一緒に行うことが出来たことは一歩前進したと感じています。

まだまだ連携について課題はありますが、少し保育と療育の連携が良い方向へ進んだと感じられた年でした。

以上